

第1学年 図画工作科学習指導案

1 題材名 ちぎってはって（絵に表す）

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第1学年及び第2学年の内容「A 表現」(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。」、それに関わる共通事項イ「形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。」を受けて設定した。

本題材は、色画用紙を手でちぎったときにできる形から、ものの形を想像し、貼り方を考えて絵に表す。紙は、児童たちにとって、毎日触れる身近な材料であり、「ちぎる」という行為は、手や体全体の感覚を働かせる行為である。「ちぎる」という単純な行為で、ただの色画用紙がいろいろな形に見えてくる面白さを感じたり、他の色画用紙と組み合わせることによって発想を広げていったりすることができる題材である。

そこで、こうした材料に関わりながら、形を変化させたり、形の組み合わせを試したりすることで、思考力や表現力を育て、自分の表したいものを見つけていく楽しさを味わわせたい。また、友達同士の発想を話し合うことで、友達の良さや面白さを自分の作品に生かしながら自分の思いを広げ、自分なりに工夫して表現する力を身につけさせたい。

【題材の系統】（「

就学前	前期				中期		
	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年
感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をする。 『ちぎって はって』 『えのぐひっばレインボー』	造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をする。 『にじんで広がる色の世界』 『キラキラワールド』	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をする。 『進め！ローラー大ぼうけん』 『墨から生まれる世界』	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や工夫、機能性と美しさの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し、構想を練る。 『なぜか気になる情景』 『見つめると見えてくるもの』			

児童たちは、これまで幼稚園でグループでのお絵描きやちぎり絵などの造形活動を通して、自分なりの表現を楽しんできた。小学校低学年において、ちぎった紙や絵の具による描画活動から、造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて

て考え、「楽しく」発想や構想する力を身につける学習を行う。中学年から絵の具での
 描画活動が主となり、「豊かに」、高学年で「創造的に」発想や構想する力を身につける
 学習へとつながっていく。

(2) 児童の実態

これまでの図工の学習では、「すきなものいっぱい」で、色鉛筆やクレヨン・パスを
 使って、自分が好きなものを楽しく絵に表すことができた。6月から7月には絵の具
 を使って、色の組み合わせを楽しんだり、思い思いの線を描いたりすることができた。
 また、「チョッキン パツでかざろう」では、はさみやのりを使って飾りを作る学習も
 行ってきた。その中で、友達の実態にも目を向け、折り紙の折り方や切り方を試しな
 がら表現することができた。こうした学習を通して、材料や用具の基本的な使い方を
 学習しながら、材料の形や色に目を向けて表現を楽しんだり、友達との交流から表現
 の良さを学び、自分の表現に生かしていくことの良さを少しずつ実感したりするこ
 とができるようになってきている。

本題材に関わる実態は以下のとおりである。

1. 「え」をかくことは好きですか。

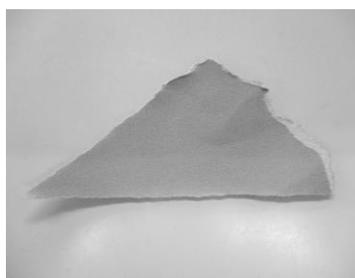
だいすき	○名	あまりすきではない	○名
すき	○名	きらい	○名
(主な理由) 楽しいから。 上手にかけるとうれしい。 上手になって楽しくなった。 いろいろ描けるから。		(主な理由) うまく描けない。難しい。 苦手。 失敗すると、いらいらするから。 作るほうが好き。	

2. 「え」は、どのようなものでかきますか。

・カラーペン	・クレヨン	・色鉛筆	・鉛筆	・絵の具
・ボールペン	・赤青鉛筆	・チョーク	・シャーペン	
・コンパス				

3. つぎのかたちは、なににみえますか。なぜそうみえましたか。

*むきをかえて みてもいいです。



(主な回答)

- ・山→形が三角だったから。大きいから。
上(先)がとがっているから。でこぼこしているから。
- ・すべり台→階段があるから。片方がななめになっているから。
左の方が長くて、右の方が短いから。

(他の回答)

三角、茶わん、紙飛行機、矢印、サンドイッチ、きつね



(主な回答)

- ・ボール→丸いから。転がりそうだから。
- ・餅、まんじゅう→丸いから。完全に丸ではないから。

(他の回答)

丸、地球、月、時計、コンパクト、たまご



(主な回答)

- ・シャツ→穴が空いているから。
- ・ズボン→足に見えるから。細いところがあるから。
- ・リボン→とがっているから。三角がくっついているから。

(他の回答)

ドライバー、さめの口、ゲーム機のコントローラー、歯、鳥の頭、トンネル、机、バケツ、袋、口、W、城、ミシン
かにのはさみ、ちょき

本学級の児童は、どの教科においても、意欲的に学習に取り組む様子が見られる。図工においても、半数以上の児童が図工の学習が「好き」だと回答していた。しかし、理由をみると、工作が好きだから「好き」と答えている児童が多く、「えをかくことは好きですか。」という問いにも「あまり好きではない」、「きれい」と答えた児童が〇名おり、理由として、絵に表す学習に苦手意識を持っている児童が多かった。

児童が思う「絵に表す」学習といえば、紙に色鉛筆やクレヨン、絵の具で絵を描くというイメージを持つ児童がほとんどで、「ちぎった紙で絵に表す」という発想はほぼない。色鉛筆やクレヨン、絵の具などはやり直しが難しいため、失敗を嫌がる児童は、特に絵に表す学習を敬遠する傾向にある。

教師がちぎった色画用紙が何に見えるかを回答したものについては、予想以上にいろいろなものを想像していた。なぜそう見えたかを詳しく説明できる児童も多かった。

一方、中には、1つ目と2つ目の形については、「三角や丸にしか見えない。」と回答、3つ目の形については、「何にも見えない。」と回答している児童もいた。

(3) 指導観

指導に当たって、第一に大切にしたいことは、この題材との出会わせ方である。材料となる色画用紙を提示し、実際に色画用紙をちぎる活動を十分に行う。様々なちぎり方を試していく中で、色画用紙をちぎったときに出る音、ちぎったときの感触などちぎる中で感じたことを、どんどん言語化していき、ちぎり方によっていろいろな形ができあがる楽しさを味わわせたい。

ちぎる活動を十分に行った後、偶然できた形が何に見えるのかを見立てる活動を行う。見立てるためには、向きを変えたり組み合わせたり色を変えたりする方法があることに気づかせる。また、偶然できたちぎった形が何に見えるのかを話し合う活動を設定し、なぜその形に見えたのかを「みえみえ ひんとひょう」にまとめていく。山に見えるのは「とがっている」から、ボールに見えるのは「まるい」からなど、ちぎった紙を見立てるヒントを表にまとめる。この活動を通して、自分と違う友達の視点を知り、想像を広げて自分の表したいイメージをもてるようにしていきたい。また見立てることが苦手な児童は、この表を参考に自分なりの工夫を表現できるようにさせていきたい。

そして、ちぎった形を並べて絵に表す活動では、台紙となる画用紙にちぎったものをのせて、配置を考えてタブレットのカメラで撮影をする。その後、台紙の色を変えたり、配置を変えたり、付け足したりして再度撮影をする。写真に残すことで、つくったものを比較し、より自分のイメージに近い1枚を選ばせる。また、失敗を恐れずに試行錯誤しながら自分なりに工夫をして、表したいものを見つけさせていきたい。

学力調査等の結果から

全国学力・学習状況調査では、国語科・算数科において、どの内容も全国平均・県平均を正答率で上回っている。経年の分析から考えても本校の児童の学力が高いこと

がわかった。一方で、児童の意識調査によると、国語科・算数科に関する関心が低いことがわかった。学力に相関がなく、低位の児童も高位の児童も関心が低かった。また、自己有用感や規範意識が低いことも課題として挙げられた。

こうした実態から、グループ活動で意見を言う等の自己表現ができるようにするために、ペアやグループ活動で児童同士の関わり合いを増やしたり、学び合いを通して学習の楽しさを実感させたりすることを意識して指導していく。本題材においても、グループで活動をしていく中で、自分のイメージを友達に伝えたり、友達の良いところを自分の作品に反映させたりしながら、共に自己表現力を向上させていきたい。

リーディングスキルテストの結果からは、イメージ同定と推論に課題があることがわかった。イメージ同定の力を向上させるためには、ICT機器を活用し、視覚と言葉とを結びつけながら指導することを意識していく。推論の力を向上させるためには、具体例を挙げさせたり、理由を説明させたりする機会を意識して設けていく。本題材においてもタブレットのカメラで撮影したものから「ここが～だから〇〇に見える」などと視覚と言葉を結びつけ、よりわかりやすく理由を説明できるようにしていきたい。

校内研究の取組から

本校では、令和3年度より国語の研究に取り組んでいる。本題材では、偶然できたちぎった形が何に見えるのかを話し合う活動を多く取り入れていきたい。その時にどうしてその形に見えたのか理由を聞くようにする。長さ、太さ、丸や三角、四角などの特徴などちぎった形を見立てる際のヒントになると考える。こうした活動を通して、児童の思考を促し、想像を広げて自分の表したいイメージをもてるようにしていきたい。

配慮を要する児童への支援

省略

3 題材の目標

(1) 知識及び技能

- ・ちぎった画用紙を並べたり貼ったりすることを通して、形や色の美しさや面白さに気づくようにする。
- ・ちぎった画用紙の並べ方や貼り方をいろいろ試すなど、表したいことをもとに工夫して表すことができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

- ・ちぎった画用紙の形や色などを基に表したいことを見つけ、どのように表すか考えることができるようにする。
- ・ちぎった画用紙の形や並べた感じなどを基に、自分のイメージをもつようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

楽しく画用紙をちぎり、絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする力を養う。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ちぎった画用紙を並べたり貼ったりすることを通して、形や色の美しさ	思 ちぎった画用紙の形や並べた感じなどを基に自分のイメージをもちなが	態 つくりだす喜びを味わい、画用紙をちぎって絵に表す学習活動に取り組も

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>や面白さに気づいている。</p> <p>技 手の感覚を働かせながら、ちぎったり、並べたり、貼ったりして表し方を工夫して表している。</p>	<p>ら、表したいことを思っている。</p> <p>思 ちぎった形を並べたり貼ったりしてできた形や色を基に、自分や友達の作品のよさや面白さについて考えている。</p>	<p>うとしている。</p>

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時数	主なねらい・学習活動	指導・支援の留意点	評価の観点 〈評価方法〉		
			知・技	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 色画用紙を自由にちぎったり、ちぎったときの音を感じたりして、色画用紙をちぎることに親しむ。 ちぎった形が何に見えるのか考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ちぎり方、ちぎる速さ、ちぎったときの音などに着目させ、いろいろな形にちぎるよう声をかける。 ちぎって偶然できた形をいろいろな方向から見たり、並べたりしながら何に見えるか考えさせる。 イメージの仕方を「みえみえ ひんとひょう」にまとめ、次時の学習でも参考にできるようにする。 色画用紙だけで絵を描き、幼稚園児に見てもらうことを話し、学習の見通しを持てるようにする。 教師見本から、配置や配色によって、雰囲気が変わることを感じさせ、次時の学習に自分なりのイメージをもって入れるようにする。 		思 発言活動	
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ちぎった形を並べたり、並べ替えたりして表したいことを考える。 写真に撮って、どの作品が良いかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 台紙の画用紙やちぎった紙が自由にとれるように、多目的広場に並べて置いておく。 座って活動できる場、立って活動できる場を設定し、自分が活動しやすい場を選択できるようにする。 タブレットを活用し、写真を残すことで、比べやすくする。 表したいものが決まらない 		思 発言活動 写真	

		児童には、前時の学習の表や板書を見ながら、ちぎった紙が何に見えるか一緒に考える。 ・ 並べ方の手本を見せたり、上手にできない場合は、教師が具体的に作業を行うことで、イメージを持たせたりする。			
3	・ ちぎった画用紙の並べ方や貼り方を工夫して表す。	・ 前時に撮った写真を見ながら台紙に貼らせる。 ・ 貼り進めていくうちに、もっとこうしたいというイメージが浮かんだ場合は、変更してもよいことを伝える。 ・ のりが上手に使えない児童には、見本を見せる。	知 発言 活動 作品		
4	・ みんなの作品を鑑賞する。	・ 表し方の工夫、形や色の面白さなどを伝え合う時間を設け、互いのよさを感じられるようにする。	知 発言 カード	態 発言 活動 写真 作品 カード	

6 本時の指導（2 / 4）

（1）本時の目標

- ・ ちぎった画用紙の形や色などを基に表したいことを見つけ、どのように表すか考える力を養う。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ ちぎった画用紙で絵を表す良さを味わいながら、楽しく取り組むことができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）

（2）本時の展開

時配	主な学習活動	支援（・）と評価（●）	資料・材料・用具等
5	1 前時の学習を振り返る。 「ちぎった紙は、どのようなところを見て、何に見えるか考えたらいいですか。」 ・ とがっているところ ・ まがっているところ ・ ながさ ・ ふとさ 2 学習のめあてを確認する。 「これらを並べて絵に表しま	・ 注意を教師に向けてから話す。（T1） ・ 前時に作成した「みえみえひんとひょう」を確認し、イメージを広げられるようにする。（T1） ・ 教師の手本を見せ、配置や台紙によって、雰囲気が変わるこ	・ みえみえひんとひょう ・ 色違い、配置違い付け足しの教師見本

時配	主な学習活動	支援（・）と評価（●）	資料・材料・用具等
	<p>す。台紙を変えたり、並べる場所を変えたりして、自分が考える〇〇のせかいをあらわしましょう。」</p>	<p>とを感じさせる。(T1)</p>	
<p>ちぎったかみを ならべて「〇〇のせかい」を あらわそう。</p>			
30	<p>3 活動の流れを確認し、制作をする。 「活動の進め方を話します。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①台紙を選ぶ。 ②台紙の上にちぎった画用紙を並べる。 ③写真を撮る。 ④台紙の色を変えたり、位置を変えたり、付け足したりする。または、違う絵を考える。 ※①から④を繰り返す。 ⑤お気に入りの1枚を決める。</p> </div> <p>①台紙を選ぶ。</p> <p>②台紙の上にちぎった画用紙を並べる。</p> <p>③写真を撮る。</p> <p>④台紙の色を変えたり、位置を変えたり、付け足したりする。または、違う絵を考える。 ※①から④を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の指示が理解できているかどうか確認し、できていない場合は、簡単な日本語に言い換えたり、英語に言い換えたりする。(T1) ・ 台紙の画用紙が自由に選べるように並べて置く。(T1) ・ 表したいことを自分で決められるよう、「みえみえ ひんとひょう」やホワイトボードを見るよう声をかけたり、友達にアドバイスをもらっていいことを話したりする。(T1) ・ グループでの様子をよく観察し、状況によっては教師が間に入って友達と関わりが持てるようにする。(T1) ・ 活動が雑になりそうな時は、表したいものを並べる→周りの背景を並べる→写真を撮る→台紙を変えるなどと活動を細かく分けて、1つの活動が終わったら次に何をするかを伝え、スモールステップを踏みながら活動を進められるよう指示をする。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色画用紙 ・ ちぎった紙 ・ 画板 ・ タブレット ・ 長机

時配	主な学習活動	支援（・）と評価（●）	資料・材料・用具等
	<p>⑤お気に入りの1枚を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 並べ方の手本を見せたり、上手にできない場合は、教師が具体的に作業を行うことで、イメージを持たせたりする。(T2) ・ タブレットの使い方がわからない児童の支援をする。(T1・T2) ・ はさみで切った色画用紙を使いたいと言う児童がいた場合、はさみを使いたい理由を聞く。そして、はさみを使わなくてもできる方法がないか考えるよう促す。(T1・T2) ● ちぎった画用紙の形や色などを基に表したいことを見つけ、どのように表すか考える。 【思考】 ・ Cと判断される児童への支援 あらかじめイメージしやすいちぎった画用紙を用意しておき、児童に渡す。(T1) ちぎった紙が何に見えるか「みえみえ ひんとひょう」を参考に考えるよう促す。(T1・T2) 	
10	<p>4 本時の活動を振り返る。 「みんなの作品を並べて、同じところや違うところを探しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きょうりゅうは同じだけど、背中のとげとげの表し方が違うね。 ・ 台紙が違うから、こっちは朝に見えたけど、こっちは夜に見えるね。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時で期待される児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりの工夫をして、お気に入りの1枚を決めている。 ・ 楽しく活動に取り組んでいる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かの作品を紹介し、工夫したところを聞く。(T1) ● ちぎった色画用紙で絵を表す良さを味わいながら、楽しく取り組もうとする。【態】 ・ Cと判断される児童への支援 児童のイメージした物を認め、前向きに活動に取り組めるようにする。(T1) 一緒に活動を行い、寄り添う。(T2) 	

時配	主な学習活動	支援（・）と評価（●）	資料・材料・用具等
	5 後片付けをする。 「次の時間は、台紙にのりでちぎった紙を貼っていきます。自分の選んだパーツをなくさないように袋に入れましょう。」		・袋

(3) 板書計画

ちぎって はって

ちぎったかみを ならべて 「〇〇のせかい」を あらわそう。

かつどうのながれ

- ①だいしを えらぶ。
- ②だいしのうえに ちぎったかみを ならべる。
- ③しゃしんを とる。
- ④だいしのいろをかえたり、いちをかえたり、つけたしたりする。または、ちがうえをかながえる。

※①から④を くりかえす。

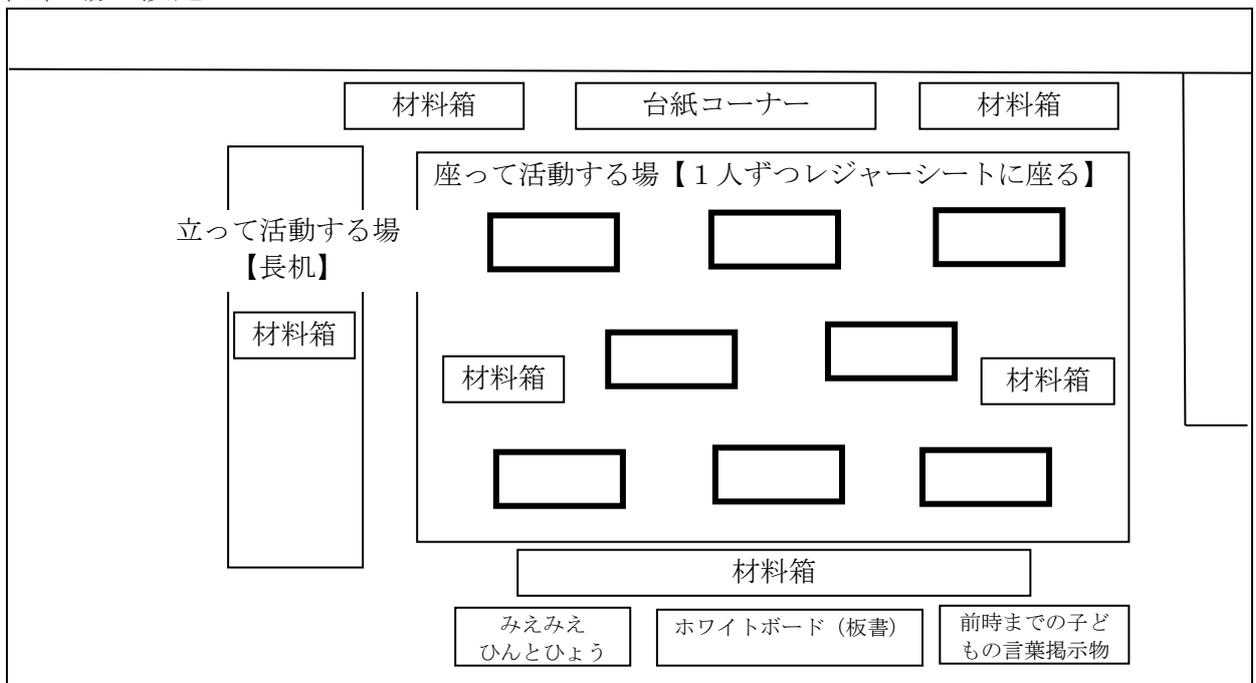
- ⑤おきにいりの1まいを きめる。

台紙の色を変えた例

向きを変えた例

付け足した例

(4) 場の設定



… 1グループ、3～4人で活動。1人ずつ画板を持ち、その上で活動させる。